



施設長 生藤

みゆき広場は1995年8月に第1種社会福祉事業の知的障害者通所更生施設として認可を受けました。当時の職員配置は生活指導員7.5対1という基準でしたので、30名定員では4人配置となります。現在では法律が変わり第2種社会福祉事業の障害福祉サービス事業生活介護事業所に移行し、生活支援員1.7対1という職員配置で事業を行っております。利用者数は前年度平均利用率によるため、現在は常勤換算18.5名で手厚い支援を行っております。日課としては生産活動や創作的活動を主として行っておりますが、最近では利用者さんの絵がTシャツのデザインとして採用されました。多くの方にみゆき広場の利用者さんの活躍を披露する場が増えて職員一同大変喜んでおります。今後とも利用者さんの活躍にご期待ください。



職員コラムコーナー

みゆき広場のカリキュラムにガーデニングがあります。

みゆき広場敷地内の畑を利用者さんと一緒に草を取り土を耕しタネや苗を植えて色々な野菜を育てています。農作業は大変だけどガーデニングメンバーはいつも元気に頑張っています。

なかでも収穫の 때가一番楽しくて「見て～！大きいのがあるよ！！」「すごいいっぱい取れた！！」とみなさんの笑顔でいっぱいです♪気づけば私も笑顔になっています(*^-^*)

収穫した野菜はお昼の給食に出ることがあります。そんな時は「みゆきの野菜じゃろ！おいしいなァ♪」「ガーデニングのみんなありがと～♪」と嬉しい声♡ステキな言葉に、また頑張ろう！！と元気を貰っています。

畑で作業をしている利用者さんや職員を見かけたら気軽に声をかけてみて下さいね♪

《みゆき広場 勤続8年 スタッフ》



☆ワークショップの開催☆

2018年10月、みゆき広場を会場にひゅーるぽんさん主催のワークショップが開催されました。みゆき広場での開催が2回目となった今回もみゆき広場の利用者さんが多数参加しています♪他施設からの参加者も迎えて大盛り上がりでした！！

ワークショップの内容はコチラ↓↓↓



参加された皆さん夢中で取り組まれていました♪芸術の秋を満喫できた一日！ひゅーるぽんさんありがとうございました！！



《編集後記》

『よろこび』第4号発行することが出来ました。ありがとうございます！

さて、この第4号にも引き続き、みゆき広場の利用者さんに対する『支援』について寄稿させて頂きました。また、手作り製品について日頃私たちみゆき広場の職員と利用者さんが向き合い、試行錯誤している様子もお伝えすることができました。完成した製品を手にとって購入していただけた時の喜びもひとしおです。先日開催されたみゆきフェスタでは、今回もたくさんの製品を購入していただき、大人気のビーズ製品はなんと完売でした☆報告会ではみんなで大喜び、次への励みとなりました♪ありがとうございます！！

今後もみゆき広場の様子を発信していきたいと思っております。引き続き、ご意見、感想等お寄せ下さいますようお願い申し上げます。

また、第1号第2号第3号の配布をご希望の方もお気軽にご連絡ください。

発行責任者 辻 恵一

みゆき広場の手作り製品について

ここ数年、製品の完成度がぐんぐん上がり、購入して下さる方からも好評をいただいている布製品。しかし、完成度が上がれば上がるほど、こんな言葉も…

「みゆき広場の利用者さんが本当に作業しているの？」

「一部の人がやっているんじゃないの？」

いえいえ、それが**工夫次第**で、色んな人が関われる、仕事なんです！

では実際、利用者さんがどんなふうに仕事をしていて、その準備を職員がどんなふうにやっているのか、ほんの一部ですがお伝えしたいと思います。

基本的に準備と最終仕上げは職員がしています。写真のように、針を刺してもらったところを水で洗うと**消えるペン**で**点**を打って（書いて）います。最初は5ミリ間隔くらいの**点**をやっと追えるほどでした。また、当時は裏と表に**点**



がないと縫えないという方もいました。何年も練習を重ね、今や**2ミリ**間隔ほどの**点**を表面だけ打てばしっかり波縫いができるように☆とにかく利用者さんは**几帳面**に、**点**があればその**点**通りに縫おうと励みます。

縫う技術があがってくると何でも縫える！と思いがちですが、利用者さんそれぞれの**技術**が**発揮**できる布や糸の**素材**を渡さなくては仕上がりにムラが出てしまいます。

例えば、布の切り口が**ほつれ**やすい布がありますよね。全く気にしない人もいれば、その**ほつれ**が気になってむしってしまう人、**ほつれ**に気を取られて、本来自分が縫っている糸を見失う人もいます。厚みのある布を、難なく縫える人もいれば、ある程度の力があるので、**集中力**が持たない人も。

刺繍はさらに縫い目に丁寧さが必要です。打っておいた**点**の真ん中をいつも狙って針を刺す人もいれば、**だいたい**で**点**に刺さっていいかという人もいます。**だいたい**と言っても大きくズれることはありません。利用者さんは本当に**几帳面**なんです！

でも、**点**の真ん中にしっかり針を刺して縫い進めた刺繍は、絵柄がとてもきれいに仕上がるので、刺繍は**得意な人**にお願いしています。

また、普段とても丁寧に縫うことができている利用者さんが「あれ？今日はどうしたの？」という仕上がりの時もあります。

点が見つらかったかな…？**体調**が良くないのかな、**気持ち**が落ち着かないのかな…**環境**が悪いか…など考えます。その都度その人に合った仕事内容を提供していきます。

「一人ひとりの持っている力を出せる機会を増やしていきたい！」

そんな想いで、私達職員も、ああでもないこうでもない日々**試行錯誤**しています。

今後、製品を手にとっていただいた時、**思いをめぐらせてもらえれば嬉しいです！！**

次号で、手作り製品のもう一つの人気商品、ビーズ製品についてお伝えしたいと思います(^)



みゆき広場日帰り旅行

11月2日、みゆき広場日帰り旅行に行ってきました(^♪今年の旅行先は…

「タオル美術館」

です！！年に1度のお楽しみ☆今年も大型バスと中型バスの2台貸し切りで行ってきました！晴天に恵まれた当日☆今年もバス車内のカラオケ大会は大盛り上がり♪タオル美術館到着すぐに記念撮影☆昼食は本格中華に舌鼓！！丸い



中華テーブルを回しながらで雰囲気も楽しめました！美術館ではタオルの製造過程を見たり、とてもかわいいムーミンの世界を味わったり☆皆さんにもおすすめしたいスポットでした♪

お土産がたくさんあり過ぎてまよってしまいました。皆さんリュックいっぱいにお土産と思い出を詰め込んで帰りました！！



みゆき広場の利用者さんのイラストがTシャツになりました！！

皆さん！このTシャツ…すごくオシャレだと思いませんか！？

なんと！このTシャツのプリントのイラストは広島市にある『I'd like』さんのイラスト募集に応募し、見事採用された利用者さんのイラスト☆実際に販売されているTシャツなんです！！

『I'd like』さんのホームページにはイラスト作成者のインタビュー記事も載せて頂いています☆

インターネットにて絶賛販売中です！！

皆さん是非チェックしてください ↓ ↓ ↓ ↓



<https://idlike.jp>

検索

クリック！！





このコーナーでは、職員目線から、みゆき広場の様子や取り組みなどを皆様にお伝えするコーナーです☆ “いろんな視点からみゆき広場を知ってもらいたい” そんな思いが込められています☆ そんな職員目線、第3回のテーマはこちら…



テーマ
「本当にそうかな？」



です！！第3回は、強い印象を持つことで起こってしまう勘違いについて皆さんと一緒に考えてみようと思います。では、突然ですが、皆さんは日頃テレビをみますか？よくテレビのお見合い番組などで聞く言葉…

「第1印象から決めてました！！」



あ～！聞いたことある～！という人は多いのではないのでしょうか？この“第1印象から決めてました”という言葉、恋愛などの場面においては「そんなこともあるよね☆」と受け止めることができますが、障がいのある方と接する場面においてはあり得ない話となってしまいます。

ここで少しだけ話を変えます(^)みゆき広場にはたくさんの実習生さんが来てくれます。そしてその実習生さんのほぼ100%が持っている疑問があります。その疑問というのが…

「利用者の方と関わりたいけど、どうやって関わったらいいのかわからない」

なんです。皆さんはどうですか？同じような疑問を持たれる方は多いのかもしれないね☆では、そういった疑問を持っている実習生に、私はいつもこんな話をします。

私：「〇〇さんは、今友達いるの？」

実習生さん：「います。」

私：「学校に入学してすぐなのに、友達はどうやって作ったの？」

実習生さん「普通にできました。」

私：「だよ。普通に友達出来てるよね。入学してすぐは知らない人がたくさんいるわけだけど、〇〇さんは友達が出来たんだよね。きっと、席が近くてたまたま話をして、この人はこんな考えを持ってると知ることができて、共通の話ができたたりして楽しくなるから、友達になったりするんだよね。」

実習生さん：「はい、そうですね」

私：「〇〇さんは、普通に人との関わり方を知っているのに、なぜ利用者さんとの関わり方がわから



ないのかな？きっとそこには、“障がいのある方”という印象が強く頭の中に焼き付いているからではないかなと思うよ」

私：「“障がいのある方” = (イコール) 話が通じないのではないかな？あまり理解できないのではないかな？となっているんじゃないかな？そう考えてしまうと、普通にできていることが全くできなくなるんだろうね。」

皆さんはどうですか？この話を聞いて、こんな風に思ってしまう人が多いのではないのでしょうか？



「いやいやそうはいつでも…」



本当にそうでしょうか？では、相手がもし、“外国の方”であったらどうでしょう？皆さんは、きっと初めは「どう関わったらいいのかわからない」と思うかもしれません。ですが、相手の人と関わるために、身振り手振りなどの工夫をしてコミュニケーションを図ろうと考えるのではないのでしょうか？では、相手が“初対面の人”であったらどうでしょう？初めは緊張するかもしれませんが、きっと自分から話題を出してみたり、相手の様子によって話し方を変えてみたりするのではないのでしょうか？（職員目線第2回でもお話しした内容です。）

第1印象というものは頭の中に焼き付きやすいものです。その内容が、今まで自分が経験したことのないような内容であれば強烈に残ります。その印象が強ければ強いほど考え方が偏ってしまいます。現に、日常行っている何気ないことも、“障がいのある方”という印象によってできなくなっている事実もあります。

みゆき広場では、この第1印象を強く持たないようにしています。日常において“第1印象”というものは、相手の秘めた力や、元々できている力をつぶしてしまうことにつながる可能性が非常に大きいからです。

例えば、“この人は動きもゆっくりだし、声かけにもあまり反応がない”という印象を持った職員がいたとします。きっとその職員は、“たぶんできない(難しい)だろうから”という印象から、相手の動きを待つことなく、たとえその時に相手の方がやろうと考えていたとしても、その行動を奪ってしまいます。皆さんも日常感じることはないのでしょうか？初めの印象と実際に感じたことの違いを感じ、“決めつけはいけないなあ”と感じたことが…

印象というものはあいまいなものです。特に福祉の現場においては、この“印象”という強烈なイメージを持つことで相手に対する見方が変わってしまい、その後の相手の人生を大きく変えてしまうものとなります。みんな同じ人間です。人と関わることにマニュアルはありません。1番大事なのは、相手を知ろうとする努力と、思いやり、ほんの少しの勇気なのではないかと思います。皆さんも“印象”という言葉、1度ゆっくり考えてみるとたくさんの発見に出会えるかもしれませんよ☆